

【緊急レポート】新型肺炎とその影響 ⑧

参考・出典：日本経済新聞より

■ 国内感染防止へアジア躍起 行動公開や集団検疫 — 新型肺炎、シンガポールや香港で拡大

東南アジア諸国連合(ASEAN)は中国と新型肺炎の対策で連携する。

20日にラオスで開く緊急外相会合では感染防止策や治療法を緊密に情報共有することなどで一致する見通し。各国の感染状況や経験について情報交換するほか、治療などに関わる人材育成でも連携

シンガポール 集団感染の経路とされたホテルの会合などの出席者を特定感染者に密接に接触した約2500人を検疫下に置く、経路不明の感染者が7人呼吸器の異常がみられる国民に5日間の自宅待機を求める

香港 自宅の建物や使用した交通機関、自宅隔離の人がいる建物を公表小中学校を休校にしているほか公共施設も閉鎖、公務員は在宅勤務で対応経路不明な患者が出ており、医療関係者に中国本土との完全な境界封鎖を求める動きがある

韓国 感染者の行動を追跡、クレジットカードの利用記録や携帯電話の使用履歴をもとに、感染症状が出た後の本人の行動記録を公開、感染者に2M以内で接触していた人には自宅待機を促す、その間は国が休業補償2015年に流行したMERS後、法改正、政府が感染者の行動履歴を公開できる

フィリピン 保健省が国家警察や地方自治体と連携、感染者3人と濃厚接触した1200人超を特定し、これまで発熱などの症状が見られた470人超を検査、大半が陰性と出ており、今のところ感染者は増えていない

ベトナム 感染者の隔離で強硬措置を取る13日からハノイ近郊のビンフック省にあるソンロイ村を封鎖、同省ではこの村を11人の感染者が確認され、1万人超の村民は20日間、村外に出られない

■ 中国が東南アジアの動きに警戒感

中国の王毅外相は、20日にラオスで開く中国・東南アジア諸国連合(ASEAN)の緊急外相会議に出席し、感染対策強化をアピール。ASEAN各国が欧米と同様の防衛策をとらないようにくぎを刺し、中国経済への打撃を和らげたい狙い

ASEAN加盟国は現在、カンボジアを除く9カ国が既に何らかの入国制限措置をとる。対応には温度差があるが、中国政府は、アジア各国でさらに入国制限が厳格化されることなどを恐れる。さらに米英が自国民に対して勧告した中国からの国外退避の動きがアジア各国にも広がらないかに警戒感を強める。

王氏は14日、「いくつかの国は過剰反応をし、不必要なパニックを引き起こしている」とし、各国の対応にくぎを刺した

アジア各国・地域の感染防止対策

シンガポール	感染者と接触2500人に検疫	
全体の感染者数 (カテゴリー内は死者)	国内感染の規模	政府の対策
81 (0)	40人超が国内感染	感染者接触の約2500人に検疫。企業が従業員の体温チェック
香港	公務員は自宅勤務、学校は休校	
61 (1)	域内感染は40人以上	感染者の自宅などを公表。公務員は自宅勤務、学校は休校
タイ	マスクの輸出を凍結	
35 (0)	4人が国内感染	マスクとアルコール消毒剤の輸出を事実上凍結
韓国	2メートル以内の接触者は自宅待機	
31 (0)	18人程度が国内感染	感染者の行動履歴を公開。2メートル以内の接触者は自宅待機促す
台湾	小中学校の開始を25日に延期	
22 (1)	経路追えない「市中感染」1例	小中学校の開始を25日に延期。医療機関の感染防止を徹底
フィリピン	濃厚接触1200人超を特定	
3 (1)	確認されず	感染者3人と濃厚接触した人を追跡、1200人超を特定
ベトナム	感染者が出た村を封鎖	
16 (0)	半数程度が国内感染	6人の感染者が出たハノイ近郊の村を封鎖

(注) 各国・地域の政府発表などをもとに作成